

平成14年9月

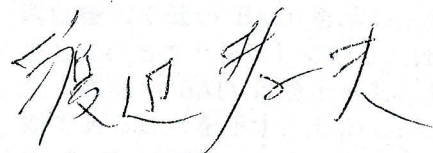
20日・21日・22日

第32回 日本口腔インプラント学会

総会・学術大会

第22回 日本口腔インプラント学会  
中国・四国支部総会・学術大会併催

## 抄 録 集



大会長 赤川 安正

事務局

〒734-8553 広島市南区霞1-2-3  
広島大学大学院医歯薬学総合研究科  
展開医科学専攻 顎口腔頸部医科学講座  
先端歯科補綴学研究室

TEL : 082-257-5677

FAX : 082-257-5679

# 上顎洞隔壁の解剖的研究

○高橋常男<sup>1)</sup>、渡辺孝夫<sup>2)</sup>、佐藤淳一<sup>3)</sup>

神奈川歯科大学口腔解剖学教室<sup>1)</sup>

鶴見大学歯学部口腔外科学第一講座<sup>2)</sup>

鶴見大学歯学部口腔顎顔面インプラント科<sup>3)</sup>

## I 目的

サイナスリフトにおける洞粘膜裂開を起こす要因の一つに洞底部隔壁がある。我々は、第18回本会関東甲信越総会で、サイナスリフトと関わりのある洞底部隔壁を調査し、報告した。今回、検体数を増やし、調査したので報告する。

## II 材料および方法

神奈川歯科大学解剖学実習に提供された献体より切り出された75剖検体、132個の半側上顎骨体ブロックを用いた。洞底部の鋸歯状に鋭く尖った突起構造を隔壁として調査した。

## III 結果

隔壁は45洞に70個みられた。隔壁のある洞の頻度は132洞の34.1%で、1洞あたりの隔壁数は最大6個、平均0.5個であった。隔壁の分布について、下稜線（左右側頬骨弓下稜の midpoint を前額断した線）上に隔壁のある洞は2洞（1.5%/132洞）、一方、下稜線より前方に隔壁のあるものおよび後方に隔壁のあるものはそれぞれ22.0%、21.2%とほぼ均衡していた。洞の外壁で、下稜線と下稜線前方10mmの間に隔壁のある洞は9洞（6.8%/132洞）で、それより前方（16.0%）、後方（22.0%）に比較し、確率は最も少なかった。各隔壁の走行をみると、内壁より外前方および外後方に放射状に走行する隔壁は49個で、大部分（70.0%/70個）を占めた。

## IV 結論

今回の調査結果は、サイナスリフトを行う際、骨開窓の位置、洞粘膜剥離方向の決定に有用な参考資料となると考えられた。